



愛知長久手ロータリークラブ

2015-2016



WEEKLY

例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=トヨタ博物館「小ホール」

会長 小谷恒夫 幹事 青山和成 会報 宮下智香子

Email: a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局 TEL:0561-64-5446

FAX:0561-64-5459



世界へのプレゼントになろう



本日 第 633 回夜間例会 2016 年 4 月 26 日(火曜日)第 625 号

<本日のプログラム> Today's Program

点鐘

<ロータリーソング>

— 夜 間 例 会 —

木曾路 東名店 受付 18:00~

開会 18:30~

前回 第 632 回例会 2016 年 4 月 19 日(火曜日)記録

<ロータリーソング> 「それでこそロータリー」

<出席報告>

員総数 20 名

出席者 10 名 出席率 50.00 % 前々回補正出席率 95.00 %



ハンバーグ
セット

<会長挨拶>

愛知長久手ロータリークラブ

日野典子会長エレクト



ドワイト・D・アイゼンハワー 3RC (AbileneRC GettysburgRC NewportRC)

アメリカ合衆国 第 34 代大統領

任期 1953 年 1 月 20 日 - 1961 年 1 月 20 日

出生 1890 年 10 月 14 日

アメリカ合衆国 テキサス州デニソン

死去 1969 年 3 月 28 日 (78 歳)

アメリカ合衆国 ワシントン D・C

政党 共和党

配偶者 メアリー・“マミー” ジュネーブ・ダウド

ドワイト・デヴィッド・アイゼンハワー (Dwight David Eisenhower、1890 年 10 月 14 日 - 1969 年 3 月 28 日) は、アメリカの軍人、政治家。連合軍遠征軍最高司令部 (Supreme Headquarters Allied Expeditionary Force) 最高司令官、陸軍参謀総長、NATO 軍最高司令官、第 34 代大統領を歴任した。

アイク (Ike) の愛称で知られる。モットーは「物腰は優雅に、行動は力強く」

第二次世界大戦で日本の敗戦が決定的になり、原子爆弾の使用は不要であることを 1945 年 7 月 20 日にトルーマン大統領に進言しており、原爆の使用を強硬に反対した。1945 年 10 月、フランクフルト郊外の自宅でハリマン駐ソ連大使を迎えた夕食の際に、ハリマンは「アイゼンハワー氏は、原爆を使わずに

戦争が終わっていたらどんなによかったことか、と話した」と記していた。

第二次世界大戦中に着ていた「ウール・フィールドジャケット」が愛称を取って「アイクジャケット」(IKE Jacket)と呼ばれ、アメリカ合衆国の警察官や保安官の着ている防寒ジャンパーにその形式(丈は腰まで、両肩に肩章、両腹部にはボタン止めの蓋を持つパッチポケット)を残す。

コカ・コーラを愛飲し、第二次世界大戦中の1943年6月29日にジョージ・C・マーシャル陸軍参謀総長宛てで「300万本の瓶詰めコカ・コーラ、月にその倍は生産できるボトリング装置一式、洗浄機および栓を至急送られたし」と電報を送ったほどである。また政治的にもザ コカ・コーラ カンパニーの支援を受けていた

ドワイト・アイゼンハワー語録全9件

「人生は、もっとよい世界を切り開こうとする場合に、初めて生きがいあるものとなる」

「重要な事は、必ずしも闘う犬の大きさではなく、犬の闘争心の大きさである」

「決断とは、目的を見失わない決心の維持にほかならない」

注釈：第二次世界大戦の行方を決したといっても過言ではない、有名なノルマンディー上陸作戦の指揮を執ったのは、ほかでもないアイゼンハワーであった。上陸の日を決めたのもアイゼンハワーだと言われる。多くの犠牲者をだしたこの上陸作戦も、目的を見失わず、決心した事を維持し続けたからこそ、成功したといえる

<委員会報告>

■ニコボックス委員会■

- ・会長幹事がみえないので大役をさせていただきます。よろしくお願いします。 日野 典子
- ・“花粉症”イヤですネ！！早期回復願います。本日も宜しく願います。 丹羽 司一
- ・座骨神経痛ひどく歩くのが困難です。 佐藤 文昭
- ・今朝ナサニエル君を病院連れて行きました。左手完治しました。 伊藤 広治
- ・こち良い季節になりました。日野さんクラブフォーラムよろしくお願いします。 山田 文明
- ・良い気候となりましたね。なるべく欠席をしないように体調を整えています。本日も 中川 清子
よろしく願います。
- ・熊本県の災害・他人事ではありません。もう一度まわりを点検する必要があります。 吉田 濱一
- ・本日もどうぞ宜しく願います。 伊藤 真
- ・日野さん本日は宜しく願います。本日より宜しく願います。 神谷 恵理

<幹事報告>

- ① 4/24(日)地区研修・協議会出席者の方は11:30~12:50(受付及び昼食)までにお越しください。
但し、11:30前の入場はできないとの事です。
クラブの名札・プログラムは日野会長エレクトにまとめて受取りをお願いいたしますので、昼食されます友愛広場にて受取りをお願いいたします。尚、遅れる場合等は日野会長エレクトにご連絡をお願いいたします。
- ② 次回例会は4/26(火)夜間例会になります。
場所は木曾路 東名店 時間:18:00~受付 開会:18:30 となりますのでよろしくお願いいたします。
尚、5/3(火)は祝日で例会はお休みとなります。
次回通常例会は5/10(火) 12:30~13:30 トヨタ博物館になります。5月第一例会になりますので、理事役員の方は例会終了後お集まり下さい。
- ③ 次年度事業方針用紙は今日4/19(火)までになっております。よろしくお願いいたします。

ーウガンダ：部族コミュニティの存続を看護学校が支援ー

～故郷を追われたウガンダのバトゥワ族を支えるロータリアン夫妻と支援する地域のロータリークラブに関する記事です。～

【ロータリー会員が支援するウガンダ南西部の病院で赤ん坊に予防接種を行う看護師】



何千年もの間、バトゥワピグミー族はウガンダ南西部に位置するブウィンディ原生国立公園の中で、シルバーバック・マウンテンゴリラに囲まれながら暮らしていました。しかし1992年、絶滅の危機に瀕したシルバーバックの保護を目的にこの原生林が世界遺産に指定されたため、バトゥワ族は故郷を追われることになりました。狩猟採集民から農民になるこ

とを強いられたバトゥワ族は、新しい生活になかなか馴染めず、部族の存在自体が危機にさらされていました。このような中、長い年月をかけ、米国、ウガンダ、そしてほかの国々のロータリー会員がバトゥワ族の支援に取り組んできました。最近では、看護学校の設立を通じてウガンダ南西部全体の医療を改善する試みが行われています。カリフォルニア州の医師でありロータリー会員でもあるスコット・ケレルマンさんは、2000年、バトゥワ族が窮状に陥っていることを知りました。そこで彼と妻のキャロルさんは医療使節団として現地へ赴き、先住民のニーズを調査することに。スコットさんは自身の目を見た状況を「医療や教育の機会だけでなく、清潔な水や衛生設備も整備されておらず、土地や食料も不安定な状態にある、まさに赤貧」と表現しています。スコットさんの調査により、バトゥワ族の38%は5歳未満で死亡していることが分かりました。これはウガンダ全体の平均値の2倍にあたります。また平均寿命は28歳であることも判明しました。

病院の建設

最初の訪問から程なくして、夫妻はバトゥワ族を支援するため、医業を含む私財を売り払ってウガンダへと引っ越し、2009年まで住み続けました。当初、夫妻は木の下で移動診療所を開き、点滴を木の枝に吊るして診療を行い、一日に診る患者の数は200人から300人、多い時には500人もいたとスコットさんは当時を振り返ります。やがて夫妻は基金を立ち上げ、ブウィンディ地域病院を設立しました。これに一役買ったのが、スコットさんが持つロータリーのつながりでした。ロータリー財団から一連の助成金を受け、ウガンダや米国、ほかの国々のロータリー会員に支援されたプロジェクトにより、手術室や歯科用装置、太陽光パネル、そして清潔な水の提供が実現し、衛生状態も改善していきました。またこのプロジェクトを通じ、バトゥワ族の人びとは小さな家畜を飼育することで栄養状態を改善する方法も学びました。現在、乳児死亡率は6%まで下がり、出産で命を落とす女性の数は60%も低下しています。「何もかもロータリーのおかげです」とスコットさん。

「ロータリーは単に資金だけを提供するものではありません。地域のロータリークラブに呼びかければ、現地のロータリアンが集結し、プロジェクトを成功へと導いてくれるのです。ロータリーは幅広い視点でプロジェクトを捉え、『病院の建設は素晴らしい。けれども疾病を予防しなきゃならない。給水や衛生状態の整備も必要だ。それに育児について女性に教えることも大切だ』と言ってくれるのです」。プロジェクトの一環として、マラリア発生の抑制を目的としたプロジェクトでは、部族の治療師を介して各家庭に何千枚もの蚊帳が配られました。「2006年には毎週1～2人の子どもがマラリアで命を落としていました」とスコットさんは振り返ります。「しかし、ロータリーが2万5,000枚もの蚊帳の配布を支援してくれて以来、9カ月間、マラリアで命を落とした子どもはいません。死亡率は90%以上も減少したのです」

看護学校の設立

数年前、ジェームズ・ジェムソンさんとスティーブ・ウォルフさんの二人の起業家がこの地域でゴリラを追跡しているとき、スコットさんと出会いました。スコットさんから看護学校の必要性について聞いた二人は、看護学校の計画、設計、建設の費用として65万ドル(約7,600万円)以上もの資金を寄付。これによって、2013年11月、ウガンダ・ブウィンディ看護学校が開校しました。両氏はさらに、ブウィンディ病院で働く正看護師のジェーン・アニャンゴさんをスコットランドのエディンバラにあるクイーンマーガレット大学へと派遣しました。この大学で看護学の修士号を取得したアニャンゴさんは、ブウィンディ看護学校の主任指導教員となりました。また、この看護学校の全学生に対し、1年分の教科書の内容が詰まったiPadも提供しました。去年は、国際ロータリー元副会長であるジェリー・ホールさんが看護教育者から成る職業研修チームを率いて2週間にわたり同学校のカリキュラムや指導要項の作成、運営体制の準備にあたりました。ホールさんはロータリーの理事だった頃、以前のプロジェクトを介してスコットさんとは面識があり、この病院の戦略計画コンサルタントを務めていました。ホールさんが所属するネバダ州のリノ・ロータリークラブは、ウガンダ・キヒヒ・ロータリークラブをはじめとする19のクラブ連携して6万7,000ドル(約790万円)を集め、この資金とロータリー財団からの補助金など合わせて247,000ドル(約2,915万円)が、同学校の備品、教室の机や椅子、実験設備のために役立てられました。

職業研修チームが帰国すると、サンフランシスコ大学に所属する一人のチームメンバーは、同大が所有する大量のデジタル情報をアニャンゴさんが利用できるように手配。また、もう一人のチームメンバーは、看護学のカリキュラムが保存されたUSBメモリをブウィンディ看護学校に送りました。「これらのテクノロジーは、ウガンダには今までになかったもの」とホールさん。「私たちの滞在中、ウガンダ看護評議会の議長が開校式に参列し、このようなテクノロジーに非常に驚いていました」ホールさんはこう続けます。「可能性は計り知れません。研修を受けた看護師を集落や地方に派遣すれば、その土地で安全に出産を行い、子育て支援にも従事できる看護師が増えるはずです。これは今までになかったことです」

国際ロータリー日本事務局 | 業務推進・資料室



5月10日(火)	5月17日(火)	5月24日(火)	5月31日(火)
地区協議会報告 祝福	クラブ全体会議	クラブ全体会議	規定休日
(トヨタ博物館)	(トヨタ博物館)	(トヨタ博物館)	